

(別紙様式 10)

平成 30 年度 北極域研究共同推進拠点 共同研究等報告書

申請区分： ☐ 萌芽的異分野連携共同研究 ☒ 共同推進研究
☐ 産学官連携フューチャビリティ・スタディ
☐ 共同研究集会 ☐ 産学官連携課題設定集会

研究課題名： 北極域を巡る日中韓の相克と協調に向けた政策的インプリケーションの構築：
中国の台頭を念頭に

研究期間： 平成 30 年度

共同研究員	氏名	所属・職名	専門分野	
研究代表者	竹内俊隆	京都外国語大学・教授	国際政治・安全保障	
研究分担者 (拠点外)	礪波亜希	筑波大学・准教授	国際政治経済学・地域研究	
研究分担者 (拠点内)	大西富士夫	北海道大学・准教授	国際政治学・地域研究	
	白井裕子	北海道大学・学術研究員	人類学、地域研究	
研究協力者	山添博史	防衛研究所・主任研究官	ロシア安全保障	
	村上享子	Department of Psychology, University of Copenhagen・准教授	社会心理学	
	Kossa Martin	Department of Asian and international Studies, City University of Hong Kong・Ph.D. Candidate	International politics, China studies	
	真山全	大阪大学大学院国際公共政策研究科・教授	国際法、武力紛争法（国際人道法）、国際刑事法	
	川名晋史	東京工業大学リベラルアーツ研究教育院・准教授	国際政治学・軍事基地研究	

【研究の内容】

(1) 図表や写真も交えて、研究の内容や成果等を 1000 字程度で簡潔に以下にまとめてください。

北極域をめぐる国際関係は、大枠的には政治的に安定しているように見えるが、米ロ関係の悪化や中国の氷上のシルクロードといった国際政治・安全保障的な要因による不透明性が今後ますます

ます増していくと思われる。本研究は、こうした背景を念頭に、以下のような基盤構築的な研究を行った。研究会は、2018年8月2日と2019年3月14日の2回北大で開催した。なお、韓国の北極政策研究は、日程および経費的な観点からできなかった。

竹内は、中国の北極政策全般の研究の中でも、特に海軍の北極進出の可能性を探った。なかでも、晋級(094型)SLBM搭載潜水艦の北極海進出の将来的な可能性を探った。文献調査のほか、海上自衛隊幹部および外務省関係者への聞き取り調査を二度行った。ベーリング海経由の場合は、海底の深度が少ない地点があり現状の中国の技術水準では困難と推測できるが、1958年に米国の原潜（ノーチラス号）が通過して以降はいくつかの原潜が通過した事実もあるので、さらなる研究が必要との結論になった。中国の艦艇が第一列島線を通る際は、日本や台湾の領海やEEZを通過する可能性が極めて高く、国連海洋法条約で言う国際海峡の解釈やその認定が極めて重要になる。逆説的であるが、中国の解釈変更があれば、協力の可能性が生じると考える。

大西は、日本の北極政策及び北極の国際政治の最新動向の調査を中心に行った。日本の北極政策は、2015年における北極政策の策定および2018年5月の海洋基本計画改定を経て、主要な海洋政策の1つに位置付けられた。気候変動要因とグローバル国際政治要因という二つの不安定要因が北極の国際関係にはあるが、本年度は特に後者に焦点を当てての調査をノルウェー防衛研究所において行っている。2014年のロシアによるクリミア併合以降、欧米とロシアの関係は新冷戦と呼ばれる対立関係にあるが、これは新常态（new normal）として認識されている。その対応策の一環として、NATOは2018年秋に北大西洋において大規模軍事演習を実施するなど、その動向に注意が必要である。

礪波は、北極域に対する投資の政治経済分析に関する学会発表を2度行ったほか、北極・南極にかかわる女性プロジェクトウェブサイトインタビュー記事が掲載された。特に注目したのは、中国が2018年1月に北極政策の白書を公表して「一帯一路」と北極とを結び付けるなど、北極進出を一段と強化するなかでも、ミサイル防衛の重要な戦略的拠点となっているチューレ空軍基地があるグリーンランドにおける飛行場建設やその他北欧諸国での巨額のインフラ投資である。安全保障に及ぼす影響を懸念する声が強くなっている。

山添は、最近の米ロ関係、欧ロ関係の冷却化を踏まえて、ロシアの顕著に積極的になってきた北極海関連の安全保障・軍事面での活動・政策の動向を探った。ロシアは、北極を戦略的資源基盤として位置付けつつも、防衛及び警備体制が脆弱であったという認識のもと、その充実を図ってきた。北極域から北大西洋にかけてロシアやNATOの軍事活動の活発化は看守されるが、ロシアの北極域における軍事力構築はなおも、2012年頃までに成立した基本計画のもとで続けられている。

白井は、研究に関連する論文や資料を探して提供した（Belt and Road Forum - EU common messages by Delegation of the European Union to China、Remarks by High Representative/Vice-President Federica Mogherini at the press conference on the Joint Communication、JCER_欧州は中国をどう見ているか_林秀毅の欧州経済・金融レポート、JETRO_中国経済市場歪曲の実態分析、中国安全保障レポート2019など）ほか、研究会の開催に当たっては事務局機能を一手に引き受けてくれた。

全体として、相克を示唆する材料ばかり出てきて、near-arctic stateとしての立場は同じにも拘わらず日中(韓)の協調・協力関係の構築を目指せるような政策的インプリケーションは見つ

けづらかった。中国の一带一路や積極的な北極域投資は、結果的には中国の影響力の拡大をもたらすことは間違いなく、それを狙っていると思わざるを得ない側面がある。そのため、日本の戦略的動向とそぐわないのであろうと思われる。北極海をめぐる政治・安全保障面での全体像を浮かび上がらせるためには、ロシアの動向の慎重な研究が必須であると痛感した。そのロシアの動きに、米国は米欧の同盟強化などの対応策をとってきている。それにさらにロシアが反応するという一種の「安全保障のジレンマ」が起こっている。やはり、北極海をめぐるのは、この二大軍事強国の動向解析が欠かせない。本年度だけでは、基礎的な研究材料や基盤の整理が始まったばかりという認識に至っている。

(2) 本共同研究に関連する活動（出張、研究打合せ、会合等）を実施した場合には、延べ参加人数が算出できるように、下表に記入してください。

日程(月 日)	日数 A	活動内容	場所	共同研究員・研究協力 者の参加者名	参加者数 B	延人数 A × B
2018・8・2	1	研究打合せ	札幌	竹内俊隆、大西富士夫、 礪波亜希、山添博史、 白井裕子	5	5
2018・2・8	1	研究打合せ	札幌	竹内俊隆、高橋美野梨、 白井裕子	3	3
2019・3・ 14	1	研究打合せ	札幌	竹内俊隆、大塚夏彦、 山添博史、白井裕子	4	4

【研究論文や著書等】

著者名(共著者名含む)、発行年、論文タイトル、掲載誌名、巻・号、ページ数、DOI、査読の有無、インパクトファクター(IF、分かれば)、分野(表下にある(注 3)から一つ番号を選択)を記入して下さい。

著者名、発行年、論文タイトル、掲載誌名、巻・号、ページ、DOI	査読 の有無	IF	分野 (注 3)
竹内俊隆、2019 年春刊行予定（校正済み）、第 6 章「台湾海峡を巡る兩岸関係と中国海軍の増強」河村有数他（編著）『台湾の海洋安全保障と制度的展開』晃洋書房	○		②
山添博史、2019 年 2 月、「ユーラシア帝国ロシアの境界問題と幕末日本」、友田昌宏（編）『幕末維新期の日本と世界：外交経験と相互認識』吉川弘文館	○		②
近藤康久、白井裕子（2018）：へだたりをこえてつながる：SESYN シンポジウムに参加して、総合地球環境学研究所地球研ニュース、73・9-11			① ②
Shirai, Y.; Leisz, S.J.; Fox, J.; and Rambo, A.T (2019): Commuting distances to local non-farm workplaces and out-migration: The case of Northeast	○	1.3 77	①②

Thailand, <i>Asia Pacific Viewpoint</i> (forthcoming)			
---	--	--	--

(注3) 分野：① 環境&地球科学 ② 人文社会系 ③ 工学 ④ 基礎生命科学 ⑤ 化学
⑥ 材料科学 ⑦ 物理学 ⑧ 計算機&数学 ⑨ 臨床医学

【研究発表】

以下の事項をご記入ください。

発表年月日、発表者名（共著者を含む）、発表タイトル、発表学会等名称、発表地（国、県、市など）、招待講演についてはその点も明記してください。

発表年月 日	発表者名	発表タイトル	発表学会等名称	発表地	招待講演 (○)
2018・5・8	大西 富士夫	北極海をめぐる国際関係 北の冷戦・平和の象徴・ 気候変動	札幌キワニスク ラブ第 950 回例 会	札幌	○
2018・6・ 28	山添博史	ロシアの安全保障:欧州 での軍事緊張と北極・極 東での脅威認識	偕行社	東京都千代 田区	
2018・7・ 5-6	大西 富士夫 白井裕子	セッション 4 北極の現 実への適応:科学的知識 から行動へ(セッション 企画) Impacts of Transportation Corridors and Tele couplings on Landscape Changes, Rural Transformations and Urbanization: Two Case Studies from the East-West Economic Corridor	スラブ・ユーラ シア研究センタ ー夏期国際シン ポジウム 移りゆく北極域 と先住民社会— —土地・水・氷	札幌	
2018・8・2	大西 富士夫	Arctic Concert System and its Challenges in the Age of Climate Change	北極域国際政治 勉強会 - 最新 の研究動向につ いて	札幌	

2018・8・2	山添博史	Russia's Security Interests in the Arctic	北極域国際政治勉強会 - 最新の研究動向について	札幌	
2018・8・2	竹内俊隆	China's Arctic Policy: Its Strategic Implications	北極域国際政治勉強会 - 最新の研究動向について	札幌	
2018・9・26	大西 富士夫	Development of Japan's Arctic Policy: The Third Basic Plan on Ocean Policy	World Social Science Forum 2018	福岡	
2018・10・4	大西 富士夫	北極をめぐる地政学：現状と展望	世界情勢研究所	東京	○
2018・10・13	礪波亜希	The choice is yours: China's investment in critical infrastructure in democracies	2018 年度日本政治学会研究大会	大阪府吹田市	
2018・10・14	山添博史	幕末維新期におけるロシアの東アジア外交:ニコライ・イグナチエフの事績を軸に	ロシア史研究会	東京都八王子市	
2018・11・8	大西 富士夫	International Relations in the Arctic: From Northern Flank to Zone of Peace, and its Geopolitical Turn	Åland Peace Institute Research Seminar	Mariehamn, Åland • Finland	
2018・12・17-18	大西 富士夫	Sustainability, politics and international law: A perspective from IR	PCRC 4th International Symposium International Law for Sustainability in Arctic Resource Development	神戸	

2018・12・18	礪波亜希	「対外投資の政治経済グリーンランドの空港建設をめぐる攻防」	北海道大学低温研グリーンランド集会 2018	札幌	
2018・12・22	大西 富士夫	北極域をめぐる国際関係レジリエントな北極域社会にむけて	さっぽろ市民カレッジ 北海道大学連携講座「世界をリードする北極域研究」	札幌	○
2019・2・6	大西 富士夫	International relations in the Arctic International order at regional-level	JSPS Norway-Japan Academic Network Seminar	Oslo・Norway	○
2019・2・13	大西 富士夫	Arctic Dragon: Three world views	Border Seminar 2019: Arctic in Asia, Asia in the Arctic	Kirkenes・Norway	○

【特許等】

なし

【本共同研究の枠組みで実施した集会(注4)等】

(注4) 共同研究者、研究協力者、招へい者以外を含む参加募集によるもの)

実施日、実施地(国、県、市など)、集会等名称、概略内容、対象者(「主に研究者」あるいは「主に研究者以外」)、参加人数(「主に研究者を対象」とした場合は外国研究機関の所属者の内数についても括弧内に明記ください。)

実施日	実施地	集会等名称	発表名・概略内容 (概略は割愛)	対象者	参加人数 ()
2018・8・2	札幌	Workshop on International Politics in the Arctic - Current Research Trends	<ul style="list-style-type: none"> China's Arctic Policy: Its Strategic Implication (中国の北極白書発表を巡る安全保障上などの問題点指摘) Arctic Concert System and Its Challenges(北極の協調 	主に研究者	10

			<p>体制が気象変動、中国の進出、ロシアと西側関係の悪化などで問題含み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Political Economy of Overseas Investment by China, Japan and Korea: The case of the Arctic (日中韓によるグリーンランドなどの北極域への投資とその影響を分析) ・ China and the Changing Arctic: Security and Actors(中国の北極域進出はますます積極的になっている) ・ Russia's Security Interests in the Arctic(ロシアは北極海での軍事力、海軍力を積極的に増強している) ・ Social and Cultural Psychology's Possible Contributions to Development in Greenland (デンマークからのグリーンランド独立の可能性といった国内事情や国民性の影響を分析) 		
2019・3・14	札幌	北極域国際政治勉強会 - 最新の研究動向について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通過通航権の適用される国際海峡の認定問題—露・加・米・日・中との関連で (国際海峡と認定されると通過通航権が生じるので、海軍の展開に大きな影響を及ぼす) ・ 「グリーンランドをめぐる base politics—NATO 加盟交渉と「国内」政治」 (チ 	主に研究者	8

			ユーレ空軍基地を「担保」 としたグリーンランドの自 治権を巡る国内政治の分析 とその国際的影響)		
--	--	--	---	--	--



2018年8月2日に行われた会合の様子（上2枚）。北極域における国際政治を主題として、戦略研究、英国学派、IPE、政策決定論、セキュリティスタディ、心理学を専門とする参加者が最新の研究上の知見を共有し、議論がおこなわれた。この研究会ではデンマークと香港からも研究者が参加し、中身の濃い勉強会となった。



2019年3月14日に行われた研究会（上2枚）。法律と国際政治学の観点から、グリーンランド基地をめぐる国内政治と国際海峡認定問題、またそれに伴う日本、アメリカ、ロシア、中国、カナダの戦略などについて幅広い議論が展開された。

【本共同研究の発展】

本共同研究の成果が科学研究費などの外部資金の応募やプロジェクトに発展した例があればご記入ください。

- ・採択：サントリー文化財団：『新技術「船舶自動識別装置(AIS)」が再認識させる日本の海洋法政

策のジレンマ―日本領海内「国際海峡」存在認定問題とその対応方法―』2018 年度途中から

・まだ構想段階であるが、中国の太平洋進出には第一列島線を通過する必要がある、その際に通過通航権が生じるか否かが国際法上の大きな問題となる。北極海でロシアやカナダの領海設定を巡る主張が安全保障面に複雑かつ大きな影響を及ぼす。そこで、本研究と上記 AIS 研究を合体して研究組織ができないかを模索中である。できれば、科研などに挑戦したい。

【アウトリーチ、取材、その他】

取材・新聞掲載などがありましたら、日時、新聞名、記事コピーを添付して頂くようにお願いします。

1) 2018. 6. 29. 朝日新聞



180629_朝日朝刊(紙面切抜)_北極航証

2) Aki Tonami, Women in the Arctic and Antarctic, January 2019

<https://womenintheartic.ca/women-in-the-arctic-profiles/2019-2/aki-tonami/>